

フライムート州議会副議長、
ガイゼル市長、
山口日本クラブ会長、
ご列席の皆さま、

本日はお忙しい中、サマー・レセプションにお越しくださり、誠にありがとうございます。
昨年は総領事館創立50周年にちなんで企画したのですが、折角一年で最も日が長い、新緑の時期なので、公邸の自然の美しさを堪能していただきたいとの希望から、今年も改めて御案内させていただいたものです。

趣旨としては、日ごろから日独間の交流に貢献していただいている様々なジャンル及び世代の方々を、この機会に顕彰し、その努力に報いたい、ということです。もちろん、多くの方、団体が日独交流に努めていただいております、全ての個人・団体に感謝している次第であります。全員に差し上げることは残念ながらできませんが、この中から、3者をお招きしています。後で具体的な顕彰の理由は山口会長から伝えていただきますが、対象は次の方々です。

- ① まず、「ドコミ」。今年で10周年を迎え、独最大の漫画・アニメコンベンションに成長しています。
- ② 次に、ケルンに所在する「天理日独文化工房」(TENRI – Japanisch-Deutsche Kulturwerkstatt e.V.)。昨年設立10周年を迎えましたが、小さな工房でありながら、素晴らしい日本文化の発信をいただいています。
- ③ 最後に、「竹の会」(TAKENOKAI e.V. – Japanisches Begegnungs- und Hilfsnetzwerk TAKE Düsseldorf e.V.)。毎年オーバーカッセル地区では初夏のイベントである「あじさい祭り」が行われていますが、今年はミニ夏祭りを7月に行われるそうです。かつて活動的だった方々ですが、齢を重ねるにつれてますます活発になられている素敵なシニア世代です。同じ世代での日独交流に貢献されていることに加え、日本人学校の生徒たちにとって、将来の人生の手本となっていることを評価しました。

三団体の皆様には、今後も日独関係の深化のため、是非とも引き続き尽力頂きたいと考えております。

この3者から見てくる、日本文化の特徴とは何でしょうか？

それは、私の意見では、「日本文化の多様性・奥の深さ」です。「若い世代と昔若かった世代の代表」ということが1つ、「伝統文化と若者文化の共生」ということが2つ目です。私にとっては、これこそが日本文化が誇るべき特徴です。

本日は、昨年と同様、茶道裏千家淡交会デュッセルドルフ (Urasenke Kyokai Düsseldorf)の皆様に御協力頂き、野点(雨天の場合は室内での献茶)をご用意いたしました。同会の名誉会長として、淡交会の日頃の活動を評価する次第です。本日もこのような形で本物の日本文化を発信していただくことにつき、厚く御礼申し上げます。また、本日、各方面から多くのハイレベルのお客様をお迎えすることができ、大変嬉しく思います。特に、昨年、州議会対日特別代表にご就任されたフライムート副議長と御同僚のご列席に感謝いたします。州議会の日本の友人の皆様には、今日のイベントを日本との交流の1つの接点と位置付けていただければ幸いです。

5月初旬にデュッセルドルフ市、NRW 州経済省との記者会見でも強調しましたが、日EU・EPAの署名、発効が間近に迫っております。日独関係がこれを通じて、経済面、政治面でも更に発展していくことを心より期待しています。

本日、時間と天気が続く限り、公邸でのひと時をお楽しみ頂ければ幸いです。

ご清聴、ありがとうございました。